

校訓 『希望』 『自立』 『前進』

令和7年度 北海道伊達高等養護学校 グランドデザイン

めざす学校像【生徒から学び、保護者と学び、地域と共に歩む、生徒主体の学校】

- ・よく考え、ワクワクする学習ができる学校（やりがい 生きがい 学びがい）
- ・地域の課題やニーズと連携し、生徒が活躍する学校（地学協働の推進）
- ・ウェルビーイング（良い状態）を感じる安心安全な学校（SDGsの視点）

学校教育目標

自ら学ぶ力を高め 豊かな心とたくましい体を育み 目標に向かって働く力を身に付け 新しい時代の社会に貢献する生徒を育てる



「学校の生活」と「寄宿舎生活の一日」による自立した生活に必要な生活習慣

- ・伊達を中心に地域とともに協働する学校（地域ニーズと地学協働）
- ・一人一人の強みと弱みを尊重する生徒主体の学校（心理的安全性の高い学校）
- ・生徒と教職員がともに学び続ける学校（3年間の学びの継続と横断的な学びの充実）

何ができるようになるか 3年間でめざす自立の姿

「生活自立」健康で安全に生活するための知識、技能、態度、習慣の育成
（生活リズム、家庭での役割、親子関係、食育、金銭感覚、性の健康、衛生）
「社会自立」周囲の人々と良好な関係を築くためのコミュニケーション能力の育成。社会に貢献するための自己肯定感の向上と自己決定
「職業自立」礼節と感謝、責任感をもって、謙虚にしなやかに働く力の育成

何を学ぶか（教育課程の編成） 3年間の学習で成長する人間性と素養

【生活面】 主体的に健康で安全に生活しようとする生徒（寄宿舎・家庭の習慣）	【仕事面】 礼節、感謝、責任感をもって、謙虚にしなやかに、作業学習に取り組む生徒	【余暇面】 表現する力 一人でも仲間とでも充実した余暇を過ごす生徒
【学習面】 自ら学ぶ力 主体的・対話的で深い学びに取り組む生徒（知識技能、思考力判断力表現力、主体性を向上する）	【めざす生徒像】 地域に貢献し主体的に活動する生徒 「自ら、よく考え、判断し、表現する」	【健康面】 主体的な運動習慣と働くための体力（持久力、筋力）、調整力、食育や保健の知識・習慣を身に付ける生徒
【心理面】 豊かな心 自己理解や悩みを周りに相談するなど、自己を尊重し思いやる生徒	【対人面】 周囲と良好な関係を築くためにコミュニケーションを適切にする生徒	【情報面】 情報社会に知識技能責任感をもって適切に参画する生徒

生徒が主体の授業

- ・実体験
- ・考える
- ・対話する
- ・分かる
- ・楽しい
- ・授業者も楽しい



どのように学ぶか（生徒主体の学校をめざす教育課程の実施）

- ・主体的・対話的で深い学びの実現（知識技能、思考判断表現、主体性）
- ・「分かり高め」特性に配慮した、授業の質の向上を目指す取り組み
- ・藍の活用や実体験、本物に触れる経験を通じた深い学び、学習の汎化
- ・学習集団の工夫（多様な見方や考え方を尊重できる集団）
- ・自立活動・道徳・個別的教育支援計画・合理的配慮の最適化
- ・寄宿舎における卒業後の生活の場を意識した生活環境